音楽教育における道徳教育の実践
ー道徳の時間の指導との関連を図ってー

所属校：狛江市立狛江第一中学校
氏　名：　是　枝　　弥　生
派遣先：東京学芸大学教職大学院

キーワード：教科における道徳教育，音楽科，教材開発

Ⅰ　研究の目的

新学習指導要領では，道徳教育の一層の充実が求められている。道徳の目標には「道徳の時間においては･･･各教科･･･における道徳教育と密接な関連を図りながら，計画的，発展的な指導によってこれを補充，深化，統合し，道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め，道徳的実践力を育成するものとする。」とあり，具体的に各教科等の道徳性の育成に関して，主な指導の「内容及び時期」を含めた計画の作成，道徳教育推進教師を中心とした指導体制づくりの一層の推進が求められている。

このことから音楽の時間ならびに音楽科が深くかかわる学校行事との関連を重視した道徳授業と，音楽科における道徳教育を実践し，検証することとした。

Ⅱ 研究の方法

1　アンケート調査　音楽科教諭の意識調査，
　　音楽科における道徳教育実施状況調査

2　文献研究
　　音楽科と道徳教育とのかかわりについての先行研究の調査。新学習指導要領解説の音楽編と道徳編の分析。道徳副読本の教材研究。

3　道徳授業用資料の開発と道徳授業実践による検証
　　鑑賞曲にかかわる道徳授業の実施と検証
　　合唱祭への取り組みと関連した道徳授業の実施と検証

4　音楽科における道徳教育の検討
　　道徳教育との関連を明記した音楽科年間指導計画の作成
　　道徳の内容項目に対応する実践例の作成

Ⅲ　研究の結果

1　アンケート調査

夏季休業中に東京都公立中学校の音楽科教諭にアンケート調査を実施した。２００通のアンケートを送付し，回収は６０名であった。

(1) 調査の目的

- 東京都公立中学校の音楽科教諭の教科における道徳教育への意識を調べる。
- 教職経験年数別の分析を行う。
- 合唱コンクール直前の時期の道徳の時間の取り扱い状況を調べる。

(2) 結果の予測

- 「心を耕す音楽科」というような研究テーマをよく見かけるので，かなり意識は高いのではないか。
- 経験年数が上がるほど，経験的余裕から道徳教育に対する意識が高まるのではないか。
- 合唱コンクールの時期は道徳の時間を転用して練習時間に当てているのではないか。

(3) アンケート調査の結果と考察（一部）

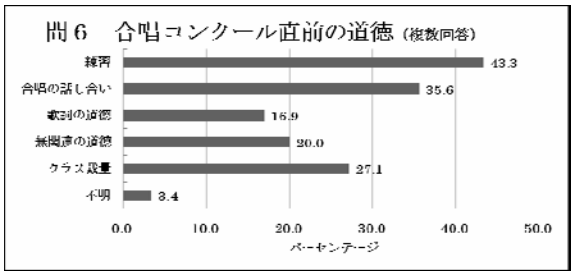
問１　音楽科における道徳教育について，授業をする際にどの程度意識していますか。
非常に意識している
時々意識している　｝約６０％
あまり意識していない
まったく意識していない
無回答　｝約４０％

問４　音楽の授業で「人とのかかわり」について指導していますか。
指導している・・・７８．３％

問１の結果から音楽科教諭は道徳教育という意識はやや弱いものの，問４の回答からは指導はしていると考えられる。

また，問１を経験年数別に見ると経験 11～20 年が最も意識が高く６４．７％，あまり意識していないという回答が多かったのは１～４年の４２．９％，21～30 年でも４０％であり，経験年数との相関は見られなかった。

問６　合唱コンクール直前の道徳の時間はどのように使用していますか。（複数回答）



練習時間等，合唱コンクールに向けた時間にしている学校が多いようである。道徳の授業をするのであれば合唱コンクールと関連性をもたせる工夫があるとよいと考える。教材の開発，研究が必要であると考えた。

２　文献研究　～情操教育としての音楽科と道徳

アンケート結果を受けて，音楽で扱う「心」と道徳で扱う「心」にはどのような関連があるのかを調べた。

学習指導要領の目標にあるように，音楽科の究極的な目標は情操を育てることにある。金本正武によると，「情操は真・善・美・聖の理念に基づき『論理的情操』『道徳的情操』『美的情操』『宗教的情操』に分けて考えられることが多い。この中でとりわけ音楽教育と関係が深いものは『美的情操』で，その感情は同時に道徳的，宗教的な観念との結びつきが強いことが確認されている。そして情操を司るのは大脳の前頭葉にあるとされる。成長過程において音楽教育が好ましい刺激を与えることは重要な役割となる。」(参照「道徳教育」2007 年２月号)

このことから音楽教育と道徳教育は情操教育という点で深くつながっていることが確認できた。この結果をふまえて，以下の具体的な実践を検証した。

３　道徳授業用資料の開発と道徳授業実践による検証

音楽の授業はほぼ週１時間であるため，作曲家の人生や，歌詞の内容について道徳教育としてじっくり踏み込んだ授業をすることは難しい。そこで道徳授業の教材として取り上げ，音楽科では鑑賞や表現の能力を高め，道徳では道徳的実践力を養えることを検証した。

(1) 鑑賞曲にかかわる道徳授業の実施と検証

まず，ベートーヴェンを題材にした自作資料「運命を乗り越えて」を開発し，所属校で検証授業を行った。同じ時期に，音楽の授業ではベートーヴェンの交響曲第五番を「楽曲の構成から生み出される効果を感じ取ろう」のねらいで鑑賞させている。道徳の内容項目を3－(3)「生きる喜び」として，ねらいを「苦難にくじけそうになりながらも，苦難を乗り越えて生きる姿から，崇高な生き方を目指す心情を育てる」とし，音楽の側面としてベートーヴェンの人生に音楽を重ね合わせて感受することを取り入れた指導案を作成した。後日行われた音楽鑑賞教室のレポートによると，ベートーヴェンの思いを重ねて鑑賞した生徒が多かった。

また，他の中学校においても本資料を使った道徳授業を実施してもらった。音楽科以外の教師が授業をするには、資料を補完する補助資料の必要性など，資料を一般化する際の課題も確認することができた。

(2) 合唱コンクールにかかわる道徳授業の実施と検証

音楽科教諭が表現力の向上を目指して様々な試みをしていても，生徒自身の心の問題や学級の雰囲気に関しては，週１時間の音楽の授業だけではなかなか改善できないことや，指導時間の不足で歌詞の理解が十分に深められないことから表現力が高まらないという課題があった。そこで，担任と道徳の時間を通じて協働することに取り組んだ。

10 月末の合唱祭に向けて，2，3 年生のクラス自由曲と関係する道徳教材を準備し，担任が授業を行った。教材は，開発した資料を活用したクラスと，副読本教材の研究より適切なものを使用したクラスがあった。

クラスの取組状況に応じて，役割，責任，協力，友情などの主題でクラスをまとめる力をはぐくむ資料を用意したが，今回は使用することはなかった。

道徳授業用資料として合唱曲と鑑賞の両方で使用できるスメタナの国を愛する心をテーマにした「ブルタヴァ（モルダウ）に込められた思い」を開発した。「モルダウ」を歌うクラスの担任に授業の実施を依頼した。生徒は，交響詩「ブルタヴァ（モルダウ）」についての理解を深めることで，曲への思いを深め，表現力の向上につなげることができた。

４　音楽科における道徳教育の検討

アンケートによるアイデアを活かして以下の２点を作成した。

(1) 道徳教育との関連を明記した音楽科年間指導計画の作成

(2) 道徳の内容項目に対応する実践一覧の作成
基本的な生活習慣や授業マナーなど，学校全体の生活指導とかかわる部分も含めた。

Ⅳ　考察

本研究からは東京都内の音楽科教諭は「心を育てる授業」を行っているが，新学習指導要領で求められているような道徳教育の意識をもった実践は，まだあまり行われていないことがわかった。

また、所属校の各教科における道徳教育計画を分析した結果、他の教科に比べ音楽の授業は道徳教育の多くの内容項目と密接に関連づけることができることがわかった。どの教科等においても道徳教育の実施が求められているが，特に音楽科教諭が道徳教育の視点をもつことは音楽の授業の活性化だけではなく，学級経営，学年，学校経営にも大きな意味をもつ。今後は音楽科教諭の道徳教育への意識を高めるために，音楽科や道徳教育の研究会等で，本研究で得たものを広めていきたい。